

ピースウィンズ・ショップから

コーヒーを飲んでできるネパール支援があります

4月25日に発生したネパール地震を受け、PWJの緊急支援活動を応援はしたいけど、寄付はしたことないしもっと簡単にネパールを応援できればいいのに…という声に応え、ピースウィンズ・ショップではネパール地震の被災者支援ができるピースコーヒーの販売を開始しました。商品1つにつき570円が寄付できる1,500円のピースコーヒーレギュラーフレーバー粉200gと、400円が寄付できるドリップバッグ5パックの1,000円の商品の2種類をご用意しています。美味しい簡単に参加できるネパール地震の被災者支援に、ぜひご協力をお願いします。



ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

同封のご注文用紙をFAXまたはTEL:03-5738-8021まで

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

アースデイ東京2015に出展しました

PWJは4月18、19日、東京・代々木公園で開催された「アースデイ東京2015」に出展しました。ブースではピースコーヒーの販売やPWJの活動紹介などを行い、ボランティアの皆さんにもご活躍いただきました。



お家に眠っている「お宝」をお役立て下さい!

PWJの活動をご支援いただく方法に、新たに「お宝エイド」が加わりました。お宝エイドは、ご自宅にあるものをお送りいただくことで、換金額をPWJにご寄付いただけるご支援の方法です。お売りいただけるものや送り先の詳細は下記URLをご確認ください。

<http://m-yamate.otakaraya.net/donation/>

また、毎月の携帯電話料金とともに寄付していただける「かざして募金」も好評です。詳細はHPをご覧ください。

(※かざして募金の領収書の発行は1回のご寄付額が1000円以上の場合のみとさせていただきます)

発行／特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

本部事務所:〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2階 ☎0847-89-0885(代表)

東京事務所:〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階 ☎03-5738-8020 フリーダイヤル ☎0120-252-176

ホームページアドレス <http://www.peace-winds.org> Eメールアドレス meet@peace-winds.org

発行人/大西健浩 編集責任者/大成絢子 執筆協力/國田博史、谷口加奈、内藤みわ、大石雅美 レイアウト/鶴野加代子

ネパール地震緊急寄付のお願い

PWJはネパール地震被災者支援のために緊急寄付を受けています。現地では、地震で家を失った人々がたくさんいます。雨期が始まる前に支援を届ける必要があります。多くの被災者に安心して生活できる場を提供できるよう、PWJの活動にご支援をよろしくお願いします。

◆郵便振替口座: 00160-3-179641

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
通信欄に「ネパール地震被災者支援」と明記してください。

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号: 00160-3-179641

加入者名: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合はその旨）を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 青山支店

口座番号: 普通 1671932

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店

口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいたしかねない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

ピースウィンズ・ニュース



peace winds
JAPAN

支援のプロを、
世界の現場へ

海外で初の捜索・救助に挑む

—ネパール地震緊急支援—

れんが造りの古い建物が跡形もなく倒壊し、人々は余震に脅えながら、にわか作りのテントに身を寄せ——。4月25日にネパールを襲ったマグニチュード7.8の地震は、死者8000人を超大きな被害をもたらした。ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)は翌日、アジアの災害対応を専門にするアジアパシフィックアライアンス(A-PAD)と合同で、災害救助犬2頭と人員7名からなるレスキューチームを派遣。海外の現場では初めての捜索・救助活動に挑んだ。

チームは28日に首都カトマンズ市内で行方不明者の捜索を始めた。翌日以降も、最も被害が大きかったシンドゥバルチョーク郡の山間部の村や、美しい寺院で知られる古都バクタブルで、地元の警察や他国の救助チームとも連携して活動を続けた。捜索最終日には、手配したヘリコプターで、いまだ捜索の手が回っていない中国国境の町リビンへ飛び、巨岩の崩落現場で不明者を捜した。

慣れない現場で頑張ったのは、夢之丞とハルクの2頭の救助犬だ。多くの人が周りを囲み、ふだんとは違う緊張感のなかで、手がかりとなる臭いを懸命に捜した。結局、5日間の捜索で不明者の発見には至らなかったが、その姿にネパールの人たちは手を合わせ、救助関係者からも熱い視線が注がれた。殺処分寸前で救われて救助犬になった夢之丞の活動ぶりは、海外の新聞でも紹介された。

捜索と並行し、PWJとA-PADは被災者に対する物資の配布も行った。5月2日と6日には、シンドゥバルチョーク郡のクビンデ村で、計700世帯に2週間分のコメ、豆、食用油、塩を届けた。今後も住居の修復や再建の支援を軸に活動を続ける予定だ。

現地では5月12日に大きな余震が起き、新たな被害が出た。6月には雨季を迎え、未舗装の道路は通行が難しくなるうえ、衛生状態の悪化も心配される。支援は時間との戦いでもある。



捜索に向かうレスキュー隊員ら



豆などの食料を渡すPWJスタッフ

支援の現場から

～今回はスリランカからレポートをお届けします！～

スリランカ東部海岸に位置するトリンコマレ県は、1983年から26年間、内戦の戦場となっていました。2009年に内戦が終結し、戦火を逃れていた住民が戻ってきましたが、住居のみならず収入源となる田畠は荒れ、家畜は行方不明となり、生活再建が大きな課題となりました。

PWJは2年間の緊急支援の後、2011年から3年間で、稻作用の貯水池22か所を修復したり約80頭の良質な乳牛を住民に提供したりし、農村地域の人々の生活再建を支援してきました。2014年以降は、これまで培ってきた生産力と組織力を土台として、農民自身が農産物や牛乳を加工・販売して安定した収入を得られるよう、協同組合による精米所や牛乳集荷所兼直売所の運営をサポートしています。

PWJは精米所などの施設を建設したほか、ビジネス経験が少ない農民（組合員）が直売所などを運営できるよう、外部専門家を招いてビジネス研修を開催し、事業計画の策定や会計、マーケティングの基礎知識を学ぶ機会を作りました。この研修により、施設オープン後、組合員が販売するコメや牛乳の売値が良くなり、商品の「地産地消」も進みました。

「ビジネスは学んだ通りに行かないのが難しいところ」と組合員の一人が話すように、事業が始まってみると、必ずしも計画通りに進まない点があることも事実です。PWJはこうした中で、組合員が地域の人々と自ら考え、意思決定することを促し、自立への道を共に歩んでいます。



牛乳集荷所兼直売所のある一日

2014年9月のオープン以来、酪農組合が運営している牛乳集荷所兼直売所では、地元の若者3人が近くの村で生産された牛乳のほか、アイスクリームやホットミルクなどの乳製品を作り、販売しています。PWJが過去に提供した乳牛から採れる地元産の牛乳や加工品を安心して味わえる直売所は数少なく、子どもから大人まで広く親しまれています。

7:00 直売所の開店準備

午後には気温が30度を超えるため、一日のスタートは早く、接客・調理担当のカラが直売所の床を掃いたり、客席を並べたりして店内を整えます。



7:30 牛乳の集荷スタート

牛乳集荷担当のプラディーパンが酪農家の自宅へ出かけます。集荷は365日。牛乳の濃度や品質を確認し、鮮度を保つため、3時間以内に集荷を終えます（写真は牛乳の濃度をチェックしている様子）。



8:00 乳製品の調理スタート

気候や予約状況から売れ行きを想定し、先ほどのカラが、新鮮な地元の牛乳を使って直売所で販売する乳製品を調理します（写真はスリランカで人気の「ミルクトフィー」というお菓子を作る様子）。



10:30 集荷した牛乳の計量と品質チェック



牛乳の集荷を終えて戻ると、プラディーパンはマネージャーのアジャンタンと共に計量し、慎重に品質テストを行います。

11:00 採れたて牛乳の販売・配達へ



その朝に集荷し、品質確認をした牛乳を、地元の幼稚園や乳製品の会社へと届けます。配達の際には、ミルク缶の上に濡らした布地をかけて、温度が上がらないように工夫をしています。

11:30 直売所にお客さんが続々



近くで仕事をしている人々が休憩するために来店。地域で唯一の生乳アイスクリームは、オープン以来変わらず人気があります。

16:00 直売店閉店



開店時間が早いので、直売所は16:00に閉店。一日の終わりに、牛乳集荷量やお店の売り上げをアジャンタンが記録します。

「地域の女性や若者の変化がとてもうれしい」

スリランカ駐在・現地代表 谷口 加奈

避難民キャンプで暮らしていた人々が再定住するとき、コミュニティの再生は大きな課題です。外から支援をしそうと、自分たちで何とかしようという住民同士の相互扶助が失われてしまうからです。組合によるビジネスを通じて、人々が少しでも生計をコントロールできるようになれば、この事業は成功だと思います。引っ込み思案だった地域の女性や若者が、組合活動や雇用を通じてやりがいや目標を見つけ、変化していく様子が垣間見えると、とてもうれしく思います。



「地域の信頼を得て、牛乳を多くの人々へ」

酪農組合理事長 タニカサラムさん

2014年9月に牛乳の集荷を始めたとき、地域の酪農家の家を回って『なぜ自分たちで運営するのか』を話し、協力を依頼したものです。開始から半年が経ち、多くの人々の信頼を得て、地域の人々に牛乳を届けることができるこことを嬉しく感じます。今では、行政との調整やスタッフの雇用、酪農家への代金支払いを組合ができるようになりました。牛乳は品質管理が難しく、日々何かと問題は起きますが、地域の人々の信頼を第一に、この牛乳集荷所兼直売所を運営していきたいと思います。



お知らせ

救助犬「夢之丞(ゆめのすけ)」が功労動物賞受賞 & 本になりました！

殺処分寸前だったところをPWJが保護し、災害救助犬に育成した「夢之丞(ゆめのすけ)」が、第7回日本動物大賞（公益財団法人日本動物愛護協会主催）の功労動物賞を受賞しました。広島土砂災害の現場での活躍が認められ、「今もって年間12万8000頭が処分される日本の現状に、大きな示唆となる事例である」という声をいただきました。

また、夢之丞の物語、広島土砂災害の現場での活動内容が1冊の本になり、4月下旬に発売されました。ジャンルとしては児童書になりますが、大人の方に読んでいただきたい読みごたえのある内容になっています。全国の書店でお求めいただけるほか、PWJのオンラインショップでも販売しています。



「命を救われた捨て犬 夢之丞
災害救助 泥まみれの一歩」

今西乃子 著／浜田一男 写真／
ピースウインズ・ジャパン 取材協力
定価 1404円(本体 1,300円+税)
金の星社より出版

メディア
掲載報告

- 2/10 NHKで災害救助犬が紹介（広島土砂災害から半年）
- 2/28~ フジテレビ「とくダネ！」、産経新聞、テレビ新広島などで「ふるさと納税」の取り組み紹介
- 3/26 中国新聞でPWJのイラク事業が紹介
- 4/1 毎日新聞で書籍「命を救われた捨て犬 夢之丞」紹介
- 4/26 朝日放送「ペットの王国 ワンダーランド」で救助犬・夢之丞紹介
- 4/26~ ネパール地震被災者支援について朝日新聞、中日新聞、TBS「NST」、テレビ朝日「報道ステーションSUNDAY」、ロイター通信などで紹介
- 雑誌「WEDGE」5月号に、広島県神石高原町で取り組む地域再生事業「神石高原ティアガルテン」開設について掲載

「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」ファイナリストに選出

PWJは社会的課題をビジネスの手法で解決する「ソーシャルビジネス」の分野で優れた取り組みを行ったNPOなどに贈られる第3回「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」に応募し、ファイナリストに選ばれました。大賞受賞には至りませんでしたが、犬の殺処分ゼロをめざす保護犬事業について、広島県の山間部で保護施設を運営しつつ、企業と連携して首都圏に譲渡センターを開いたり、「ふるさと納税」で資金を調達したりと、革新的な試みに挑戦していることをPRしました。